

## 子どもたちと鴨川の自然を知る

岸本 清明

(加東市立鴨川小学校教諭)

加東市立鴨川小学校は、加東市の東北端、御嶽山清水寺の麓にあるへき地校である。2006年度児童数は30。中国山地の低山に囲まれた鴨川地区は、自然豊かな環境である。

しかし、子どもたちの自然離れは進んでいる。魚や虫をとる網の無い家庭もあり、チョウやトンボを網で捕れない子どもたちの現実がある。

そこで、この豊かな自然を教材に、いろいろな学習活動を組織し、自然離れを食い止めようとした取り組みを報告する。

### 1 季節の活動

#### (1) 鴨川の春

新緑の山にたくさん生えた山菜。これを全校生で調理し食べる活動「山菜ご飯づくり」が伝統になっている。鴨川の自然を味わうところから、1年が始まる。



#### (2) 鴨川の夏

夏には、「水生生物による川の汚れ調査」を実施する。06年度は、2年生～4年生が、福崎高校の久後地平先生のご指導で調査をした。川の中には小さな生き物が暮らしていることを知ることが、環境教育の原点になると考える。



また、今年度 PTAと共催で「鴨川魚調査」も実施した。アユやムギツク、ヨシノボリやドンコ、ヌマエビやスジエビの他、カワムツやオイカワの稚魚がたくさんとれた。

その他、夏休みには各地区の老人会のご指導のもと、低学年を対象に「昆虫採集講座」を開いている。

#### (3) 鴨川の秋

裏山の木や製材所の廃材を用いて、「木工教室」に取り組んでいる。毎年想像力豊かな作品が生まれている。

また、学校周りの自然を感じる「オリエンテーリング」も恒例になりつつある。06年度は、①学校裏山登山 ②校庭の樹木の太さ測定 ③学校横の溪流上り ④落ち葉での「しおり作り」のコースを楽しんだ。



#### (4) 鴨川の冬

「耐寒駆け足」と「マラソン大会」は、アップダウンのきつい周辺の山道を走っている。また、北播磨県民局森林林業課の方にご指導いただき、5・6年生を対象に、リスの調査や、森の遷移を探る「森林教室」も実施した。

### 2 鴨川の生物ポスター作り

子どもたちがとってきた生物や植物を写真に撮り、ポスターにして公民館などに掲示している。昆虫の同定には、県立人と自然の博物館の沢田佳久先生にご指導いただいている。

03年度には、16枚のポスターを作り、120種の野草を紹介した。04年度には、12枚のポスターで31種の野草と28種の生物を紹介。05年度になると、子どもたちが生き物を採ってくるようになった。そして、17枚のポスターになり、38種の野草と43種の生物を紹介した。06年度も全校生が生き物を採ってきた。



ポスターは17枚で、14種の野草と68種の生物を紹介した。

経済の成長で人々や物の動きが活発になり、気候変動も加わって、自然環境も激変している。このポスター作りを通して、子どもたちの手で「鴨川の今」が記録される意味は大きいと考える。

### 3 地域の自然を教材にした「理科」や「総合的な学習」の創造

04年度には、6年生が「野鳥学習」に取り組んだ。

05年度には、4・5年生(複式学級)が「野鳥学習」を引き継いだ。また、2・3年生(複式学級)では、環境学習につながる「サワガニと見た鴨川の川」の実践をした。

06年度は、3・4年生(複式学級)が「ホタル」を教材に、学習を進めている。また、アサガオの赤斑から酸性雨に結びつけ、環境学習とリンクする理科「水溶液の性質」(6年生)の授業実践が展開された。

### 終わりに

このように、たくさんの専門家のご指導のもと、豊かな自然を教材にした取り組みを進めてきている。

子どもたちは、「小さいころは当たり前みたいに思っていたけれど、勉強すると、山や川、池などにいっぱい生き物がいて、びっくりした」と鴨川を「再発見、新発見」している。その過程で、ずいぶん自然好きになってきている。外に出ると、「生き物はいないか、季節によって植物が変化していないか」と、進んで調べている。

また、「みんながやらなければならないことをしていないと、空気がよごれたり、ゴミを集める人たちが困ったりするから、ゴミの分別などをしっかりしてほしい」と考えられるようになり、環境意識も高まってきている。